

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-7316  
 住 所 東京都港区東新橋1-9-1  
 氏 名 ソフトバンクテレコム株式会社  
 代表取締役社長 兼 CEO 孫 正義 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	ソフトバンクテレコム株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	*****		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	G	情報通信業
	中分類	37	通信業
主たる事業 の内容	電気通信事業等		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	6,006	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	CSR企画部
		所在地	東京都港区東新橋1-9-1
		電話番号	03-6889-6302
		FAX番号	03-6889-6603
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成25年度 ~ 平成27年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	環境および地球温暖化への取り組みについて下記のホームページにて公表しております <a href="http://www.softbanktelecom.co.jp/ja/initiatives/csr/environment/index.html">http://www.softbanktelecom.co.jp/ja/initiatives/csr/environment/index.html</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

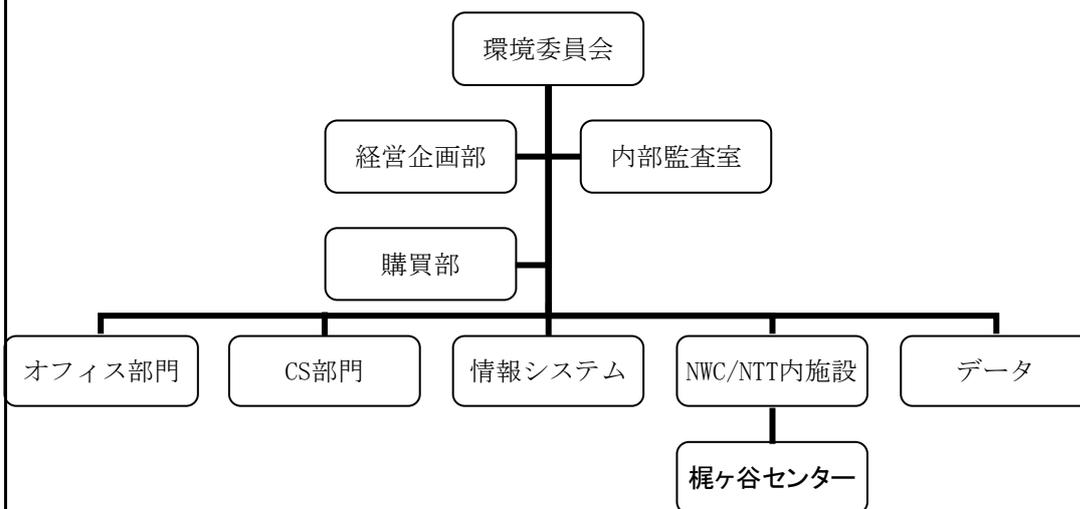
川崎市内の事業所は、全社方針に従う。全社方針は以下である。

「私たちは、地球環境の保全が世界共通の重要課題であると同時に、企業市民としてのソフトバンクテレコムと、それを構成する私たち社員一人ひとりの責務でもありと考えています。こうした認識のもと、2004年6月に「環境行動指針」を定め、環境保全への体系的な取り組みを推進しています。

- ・ ソフトバンクテレコム株式会社（以下「弊社」という）は、事業活動を通して、地球環境の維持・保全に積極的に取り組み、持続可能な社会の継続的発展に貢献します。
- ・ 弊社は、事業活動の推進において、環境保全に関する諸法規及びその他の要求事項を遵守します。
- ・ 弊社は、環境マネジメントシステムにより、事業活動における環境負荷を低減していくため、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等について環境目標を設定し、継続的な改善に努めます。
- ・ 弊社は、事業用機器や物品の調達に当たり、環境にやさしいグリーン調達を推進します。
- ・ 弊社は、環境負荷低減に資するネットワーキング技術の開発やネットワーキングサービスの提供に努め、社会全体の省エネルギー化に貢献します。
- ・ 弊社は、社員への環境教育に努めるとともに、弊社の環境に関する情報を社内外へ公表しコミュニケーションを図ります。」

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

全社横断組織として環境委員会を設置し、これを核としてCO2削減のみならず環境問題全般に関して継続的改善（PDCAサイクル）を推進する体制を設けている。  
またISO14001を取得している。  
川崎市内における当社排出CO2の大半を占める梶ヶ谷センターはネットワークセンターであり、ネットワークセンター部門の一員としてCO2排出削減に取り組んでいる。



## 3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

## ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成24年度	目標年度	平成27年度
基準排出量	(実) 11,357 (調) 11,350 t-CO <sub>2</sub>	目標排出量	(実) 11,016 t-CO <sub>2</sub>
削減率	(実) 3.0 %	削減量	(実) 341 t-CO <sub>2</sub>

## イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	-	単 位	-
基準年度の値	100.0	目標年度の値	97.00
削減率	3.0 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由	原単位分母として、梶ヶ谷センターではラック数、小規模なネットワークセンターでは延べ床面積を用いている。		

## ウ 目標設定に関する考え方

<p>川崎市における排出量の99%を梶ヶ谷センターが占めている。梶ヶ谷センターでは、使用していないフロアの一部をデータセンターとして活用し、このサービスは今後も微増させていく計画である。このサービスには専用の高効率UPS及び空調設備を設置し、エネルギー使用量の増加を最小限にする工夫を取っている。その他、老朽した空調設備や通信電源設備の機器更新、サービス停止による通信設備機器の撤去を順次進めていくことで全体としてCO2排出を抑制する。</p>
--

## (2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

<p>（全社目標）</p>
---------------

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー効率の良い空調、換気設備の新設・更新             <ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備のインバータ化</li> <li>・パッケージエアコンの設備更新</li> <li>・ターボ冷凍機の更新</li> <li>・冷媒ガス（フロン）R22⇒R410への更新</li> <li>・送排風機のインバータ化</li> <li>・冷却塔設備の更新、冷水チラーの導入</li> <li>・ポンプ類のインバータ化</li> <li>・局所空調の導入</li> <li>・空調マルチエアコンの個別管理化</li> <li>・BEMSによる運転制御、管理</li> </ul> </li> <li>○空調機器の適正な管理             <ul style="list-style-type: none"> <li>・室外機の定期的な洗浄</li> <li>・タイマー、センサー等による制御システムの採用</li> </ul> </li> <li>○最適な風量制御             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラック床下の開口調整</li> <li>・コールドアイル／ホットアイル</li> </ul> </li> <li>○受変電設備、通信電源設備の更新、BEMSの新設             <ul style="list-style-type: none"> <li>・電力の需要実績と将来動向を踏まえた受変電設備の配置、容量等の決定</li> <li>・基準エネルギー消費効率以上の機器の採用</li> <li>・BEMSの採用</li> </ul> </li> <li>○照明のLED化</li> </ul>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

まずは自らの努力によってCO2排出量を削減することに取り組み、再生可能エネルギーに関しては今後検討する。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

梶ヶ谷センターではすでにISO14001を取得しており、CO2削減のみならず、環境課題全般にわたり継続的改善（PDCAサイクル）を推進し、環境に負荷のかからないネットワークセンターの運営に注力してきている。

## 6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

## 7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- ・ ICT機器についての調達基準の設定  
ICT機器についての調達基準を設定し、「ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会」の定めるICTエコマーク取得。
- ・ グリーン購入の推進  
事務用品の調達において基本的に100%グリーン購入を継続実施する。
- ・ 廃棄物の減量化・分別化の推進  
分別することによって再資源化に取り組んでいく。
- ・ 紙資源のリサイクル  
不要になった紙については、再生可能な形での廃棄を継続する。
- ・ 企業にクラウドコンピューティングを活用した、新しいワークスタイルを提案し、これにより、ビジネス上の利点に加え、省エネルギーにも寄与していく。
- ・ ペーパーレス推進  
社内業務用の紙使用量を削減する。

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	11,357	t-CO <sub>2</sub>
(調)	11,350	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
梶ヶ谷センター	*****	3712	長距離電気通信業	11,303 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k1 未満	
300~400k1 未満	
200~300k1 未満	
100~200k1 未満	
100k1 未満	5

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--